

柏駅に位置する7つの町会で構成されています。近隣センターを拠点に、町会の垣根を越えて、福祉活動や地域住民の交流を図り、住みよい生活環境づくりをめざして活動しています。

発行:富里地域ふるさと協議会・富里地区社協部会 http://www.fk-tomisato.net/ 編集・制作: 広報部 koho@fk-tomisato.net お 問 合 せ: Tel 04-7173-9531 (富里近隣センター)

「富里地域ふるさと協議会」は、JR柏駅から南



「3.11」から5年!

地域の人に聞いてみました



東日本大震災から5年。広報部では震災の体験や 対策、日頃の備えなどを地域の人に聞きました。

Q1 (複数回答)

「3.11」で困ったこと

安否確認	28.6%
停電	17.1%
計画停電	14.3%
帰宅困難	14.3%
飲料水	10.0%
携帯電話の不通	10.0%
棚上の物が落下	7.1%
放射能汚染	5.7%
余震などの不安	5.7%
ガソリンスタンド	2.9%
の混雑	
その他	18.6%

Q1「安否確認」がトッ プで 28.6%。子供や勤 務する家人、親類など への安否確認が出来な かった。携帯電話がつ ながらなかったことも 混乱の原因でした。「イ ンターネットで防災登 録をした」(豊東 50 代 女性)、「伝言ダイヤル を活用することにし た」(豊西 60 代男性) などの対策がとられて います。「帰宅困難」と 答えた人も 14.3%。「都 内に勤務する娘が徒歩

と車の乗り継ぎで翌朝未明にやっと帰宅した」(緑ヶ丘70代男性)などの体験例が。「会社に歩き易い靴を置いた」(通一丁目40代女性)や「道路地図を買って帰宅の順路研究した」(緑ヶ丘40代男性)といろいろ工夫されています。

Q2 緊急連絡網はありますか?■ある ■ない ■ ない ■ わからない

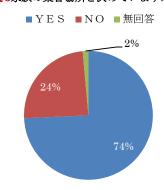


本部などに上げるための情報網は、ほとんど整備されていないのが実情。「近所との付き合いを深め、いざという時に助け合わなければ・・・・」(緑ヶ丘 40

代女性)という声も多く、町のすみずみまでお互いが声を掛け合えられる環境づくりが、町会などの大きな課題と言えそうです。

Q4 ほとんどの家庭で飲料水、非常食、防災用品を備えていました。中には「非常持出し人分のタオル、ティッシュ、懐中電灯、電池、10円玉、ロウソク、

Q3 7 割以上の方 **Q3**家族の集合場所を決めていますか?



Q4 (複数回答)非常用に何を準備していますか?

飲料水	62.9%
非常食	75.7%
防災グッズ	52.9%
簡易トイレ	7.1%
備蓄していない	10.0%



刻な事態に備えるには、現金、携帯電話、常用している薬は絶対に用意すべきです」(栄町 70 代男性)という提言もありました。「各家庭で家族分の食料や飲料水などを用意しておくのが防災の基



生活に寄り添う在宅医療 家庭医、織田暁寿さんが講演 地域の勉強会



地区社協部会では、 年末恒例の地域の勉 強会を 12 月 13 日、 近隣センターで開き ました。テーマは前年 に続き「在宅医療」。 今回は開業医として 実際に在宅医療に取

り組んでいる家庭医の織田暁寿さんを講師に迎えました。会場には110人もの人がつめかけ、熱心に聞き入っていました。急速に高齢化が進み、柏市のような都市部では、病院のベッドは高齢者で満杯になろうとしています。そんな時代を見据え、患者が家族らに見守られ、主治医の訪問医療を受けるのが在宅医療。制度として確立するためには、地域の医療や介護、ケアに関わりのある多くの専門家の重携が欠かせません。織田さんは「患者の生活の質を向上させ、周囲の人との人間関係を大切にしながら医療を進めていくのが、在宅の大きな特色です」といいます。在宅医療の対象となるのは

- ① 病後、病状が安定したのに通院が困難
- ② 寝たきりや病弱な高齢者
- ③ 悪性腫瘍の末期で自宅治療を受けたい人、など。



などが紹介されました。在宅医療の仕組みは「月2回以上の定期訪問診療+24時間の臨時対応」が基本。主治医(織田先生のような家庭医)と、カバーする副主治医が訪問しますが、24時間対応のためには、看護師、薬剤師、歯科医師、理学療法士、ケアマネージャー、ソーシャルワーカー、介護福祉士、地域包括支援センター、民生委員といった、じつにさまざまな人たちのチームワークが支えます。「地域が病院になるのです」と織田さん。医療費の目安は、月2回の定期診療で1割負担の場合、訪問診療料約1,600円(800円×2回)、医学総合管理料約4,600円、合計約6,200円。薬代は別途。臨時往診や検査、訪問看護などで費用がかかる場合もあります。介護関係の費用も別です。

柏市の75歳以上の人口は2010年の3万人が2030年には7万人と予測され、いつまでも在宅で安心し



入れています。織田さんは「市のバックアップを受けて、在宅医療が全市で広がることを願っています」と話しています。

在宅医療についての相談窓口 柏地域医療連携センター (柏市豊四季台1-1-118) 04-7197-1510



地域包括支援センター開設

柏市中央に新設



柏東口第2包括支援センターが新設され、2月にオープン。富里、永楽台の2地域の窓口となります。 専門家が連携して、高齢者の保健、医在宅療、福祉、介護や虐待防止などの相談に当たっています。

業務時間 午前8時30分~午後5時15分 (土、日曜日、祝日を除く)

〒277-0023 柏市中央 2-9-12 リッツハウス C 号室



健康づくりに寄与

谷村さん、功労者表彰

柏市住民福祉大会が 12 月 12 日、アミュゼ柏で開かれ、地域 の社会福祉に寄与した個人 155 名と 12 団体が、柏市社会福祉 協議会から表彰されました。富 里地域では柏市民健康づくり推 進員の谷村吉詩恵さん(豊東) が、健康づくりに活動した功労 者として表彰を受けました。



毎日の介護お疲れ様!

地区社協部会

地区社協部会では「要介護3」以上の人を自宅で介護している家族の方に今冬もシクラメンの鉢植えを贈りました。対象者は51人。クリスマス前日の12月24日、担当の民生委員が各家庭を訪れ、鉢を手渡して日頃の労苦をねぎらいました。



異次元の巨大地下空間

地区社協部会研修



12月11日、「石の町」で知られる宇都宮市大谷町の大谷谷野の大た。 参加者は同部会のと協議会のとと協議会のといる。 人。大谷石とはこの

町一帯で採掘される、2,000 万年前の地層の流紋岩質角礫凝灰岩の総称。8世紀に下野国分寺の土台として使われ、近年では大正年間、旧帝国ホテルの建築資材に利用され、関東大震災でもびくともしなかったといわれます。岩盤を削り、柱や壁の役目となる部分を残して。長年地下へ向かって掘り進められた採掘跡が、そのまま資料として観察できるユニークな施設です。地下空間の広さは約2万平方メート

ル。深さは平均で30 メートル。エジプト のピラミッドの内部 や映画の地下神殿を 思わせる、広が想的な 巨大空間の広がりな 圧観。手堀りの よたツルハシの 岩肌に刻まれ、大昔



の採掘風景が目に浮かぶよう。広い空間のあちこちに舞台、照明が施され、アイルランドの歌手エンヤのコンサートや結婚式場として使われたり、映画「るろうに剣心」やテレビドラマのロケ地としてもよく使われるとか。資料館周辺は大谷石むき出しの岩肌が見られ、弘法大師が作ったと伝えられる日本

古来の磨崖仏、大谷観音にも拝観し、石の歴史や文化を体感する研修でした。

7 *

川の駅「水の郷さわら」

防犯·防災視察研修



柏市防犯協会富 里支部(鴻巣光毅支 部長、7町会で構成)で4月なみの温 かくなった2月19 日、「防犯・防災視 察研修会」実施。

参加者27名、「柏

市福祉バス」で川の駅「水の郷さわら」防災教育展示室を訪れました。

国土交通省と千葉県香取市が合同で開設。川を中心にした人々の交流拠点としての機能と災害時の緊急対策機能を合わせ持つ施設で、利根川の過去の水害の記録や、利根川の特徴、川の近くではどんなことに気を付けたらいいのか、安全な暮らしを送るためのヒントを紹介。「川の駅」ガイド会(ボランティア)の田辺芳廣さんにより、洪水発生時、堤防決壊の状況再現する「堤防撤回実験装置」の実験等で「河川防災」の実態と対策及び大型地図やパネリングで「利根川」・「治水技術」の講習を受けました。参加者全員が、いつ襲って来るか解らない「災害」対策の重要さを改めて考えさせられました。

研修終了後、古くから水郷の町として栄え、「小 江戸」と呼ばれ当時の街並みが残っている、市街「小 野川」沿いを散策しました。



「柏市福祉バス」は、3月末で廃止となり、富里ふるさと協議会での利用は最後となりました。

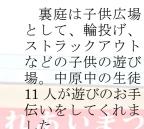
春一番! ふるさと「ふれあいまつり」

☆☆☆ 盛況だったリサイクルバザー ☆☆☆

恒例のふるさと」「ふれまつり」が、3月12日、近隣センター全館は大きした。地大学の人が提供した。地洋側の人が提供した庭り、で変換が、食器など大量を発いる。



の品物が並ぶバザーは人気のイベント。お買い 得品を求める来場者でにぎわいました。売り上 げの 176,310 円は、地域の福祉のために使われ ます。







和室の演芸大会では、合唱、詩味などが異踊などがシニアが中心で、93歳年ので、タ3年ので、94年には大きな性には大きが手が、からなどので、93年のでのである。



アロマテラピーの講習会

生活環境部

植物の芳香で心や体をいやすアロマテラピーが 静かな人気。その楽しみ方の講習会が2月2日、近 隣センターで開かれました。講師は布田あゆみさん



(アロマサロン経営)。植物から抽出した芳香成分を凝縮し、エッセンシャルオイル(精油)として活用するアロマテラピーは、ヨーロッパが発祥の地。治療に用いる国もありますが、日本では

もっぱら心と体のリラクゼーションとして楽しまれています。講習会ではアロマオイルの種類や特色、アロマスプレーの作り方、健康面で気をつけることなどの基本を学びました。合成品は避けて、純粋に天然のものを使うことが大切とのこと。ほのかな甘い香りが漂う中、受講した36人(全員女性)が、リラックス効果、リフレッシュ効果などの好みのものを選んでスプレー作りに挑戦しました。

ママも一緒にリフレッシュ♪

児童保健福祉部

日頃、子育でにた 子育でいるもした。 大名では、心シュンのは 大名ではした。 でいるからない。 大名では、 でいるが、 大名では、 でいるが、 ないのが、 、 ないのが、



未満の赤ちゃんを連れた 26 人のお母さんが参加しました。健康運動指導士の石原由紀子さんが、赤ちゃんと一緒でもムリのない運動をやさしく、ユーモラスな口調で指導。子供を抱っこしながらの腰のストレッチ、おんぶのポーズでのバストアップ、やわらかいボールを使っての運動、アンパンマンのションで、イーに合わせての体操などで、1時間あまり心地よい汗を流しました。若いのに日頃から「腰が痛い」「ひざが気になる」というママも多かったようで「育児をしながら運動不足の解消に役立ちそう」と好評。柏市民健康づくり推進員のみなさんのサポートもあって、お母さんたちも安心して体操を楽しんでいました。

新春囲碁大会

文化部

spect of a

新春恒例の囲碁大会が、 1月24日近隣センターで 開かれました。

今年で31回目と歴史は古いのですが、参加者は年々減って、今年は12人とちょっとさびしい大会でし



た。しかし対局はなかなかの熱戦でした。

優 勝 日高 澄さん(緑ヶ丘) 準優勝 加茂 孝志さん(富里) 3 位 広川 欣也さん(豊東)

通報は落ち着いて、正確に!

豊町ふるさと会館

豊町東町会、豊町西町会が利用している会館の防災訓練が1月30日に行われ、約40人が参加しました。あいにくの雨で起震車による体験は中止となり、「119番」通報訓練などを実施。参加した人たちが「自宅で火事が発生」「孫がひきつけを起こして呼吸困難」などの想定で通報。



に所号て答い導た署の 訓自やをとえ場に東員場 なの話かされもを消火は の住番れにな指っ防災パ

ニックにおちいりがちで、言葉が出てこないケース も多い」と指摘。初動の出動にとって通報はきわめ て重要です。

- ✓「何が燃えているのか」
- ✔ 「場所はどこか」
- ✓「建物の何階なのか」

が正確につかめないと、適切な車両や人員を出動させられないからです。「落ち着いて、正しい情報を伝えてください」とアドバイスが。火災についての講話は、煙のこわさについて。カーテン、壁紙など化学繊維が燃えると、真っ黒な煙がでます。酸素、濃度がゼロとなり、吸い込むと危険。煙は上へと流れるので、口や鼻を押さえ、低い姿勢で脱出を流れるので、口や鼻を押さえ、低い姿勢で脱出のと流れるので、口や鼻を押さえ、低い姿勢で脱出のと流れるので、口や鼻を押さえ、低い姿勢で脱出のと流れるので、口や鼻を押さえ、低い姿勢で脱出を上がり。東町会婦人部手作りのカレーをかけてのとおり。東町会婦人部手作りのカレーをかけていたおり。東町会婦人部手作りのカレーをかけてしまず食、水などは一家で3日分は備えておきましょう。

+++++ 編集後記 +++++

5年前の震災の記憶をお聞きして、1面の 記事にしました。深刻なのは「安否確認」を どう伝え合うかという、緊急連絡網が不充分 なことでした。「高齢なのでどう脱出してい いのかわからなかった」というのは、84歳の 男性の声。高齢者や両親が勤めに出ていて、 家には子供だけという世帯にとっては、安否 確認のための連絡手段をどうすればよいか が、大きな課題としてクローズアップされま した。身近な人同士で助け合うという環境を どう作っていくかという問題でもあります。 お聞きしたのは広報部がお願いした一部の 方々ですが、防災を考えるいくつかのヒント をいただきました。あの震災を風化させず に、考えたり、備えたりするきっかけにして いただければと思います。

(広報部)

